

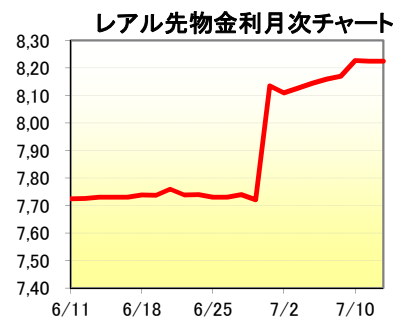
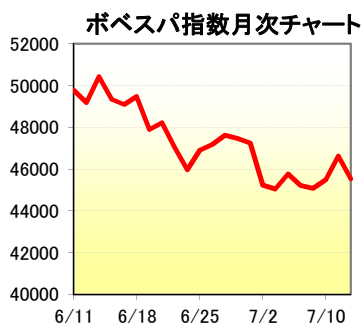
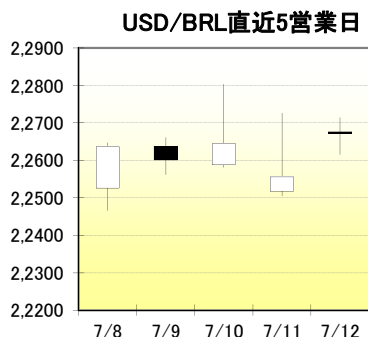
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			7月5日	7月8日	7月10日	7月11日	7月12日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2620	2,2550	2,2710	2,2580	2,2660	+0,0080
	USD/YEN	Spot	101,20	100,93	99,59	99,03	99,22	+0,1900
	EUR/USD	Spot	1,2831	1,2878	1,2898	1,3102	1,3061	-0,0041
	BRL/YEN	Spot	44,94	44,58	44,01	43,90	43,77	-0,1300
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,59	1,54	1,59	1,50	1,40	-0,0921
		1Year(p.a.)	1,73	1,71	1,73	1,69	1,60	-0,0884
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,82	8,82	8,80	8,80	8,83	+0,0250
		1Year(p.a.)	9,22	9,18	9,10	9,18	9,22	+0,0383
Stock	Bovespa		45.210	45.076	45.483	46.626	45.533	-1.093,02
Bond	CDS Brazil 5y		209,98	209,98	201,13	189,99	187,20	-2,7930
	Global 40		119,000	119,125	118,825	119,130	119,250	+0,1200

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊社担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	
経済活動指数 (前月比/季調済, 5月)	-1.15%	-1.40%	0.96%	なし
経済活動指数(前年比/季調 前, 5月)	2.80%	2.28%	7.30%	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は US\$1=R\$2. 2530 で寄り付いた。
- 週初はサンパウロ州の祝日を控えてレアル相場の流動性は極めて限定的な展開となる中、レアルは寄り付き直後に週間高値となる US\$1=R\$2. 2470 を付けたが、その後売りが優勢となり 2. 26 台半ばまで下落した。
- 祝日明けの 10 日には米 FOMC 議事録の発表を控えてレアルはじりじりと下落、週間安値となる US\$1=R\$2. 2800 を付けると伯中銀によるドル売り介入が通知され、レアルは 2. 2750 まで小反発した。午後に FOMC 議事録が発表され、債券購入ペース減速を開始するには一層の雇用改善が必要との認識が示された一方で、資産購入の縮小が近く正当化される可能性を指摘する声も聞かれ、玉虫色の内容となる中、レアルは一時 2. 2700 を上抜けて続伸した。
- 10 日夕刻に伝わった「米経済には引き続き緩やかな金融政策が必要だ」とのバーナンキ FRB 議長の発言を受けて米緩和縮小観測が遠のいたことから翌 11 日にもリスク資産の買いが見られ、レアルは 2. 25 台前半まで続伸したが、大口の資金流出の噂が聞かれるとレアルは一気に反転、2. 26 台前半まで売り戻された。
- 週末にかけては中国の経済成長率が同国政府の予想を下回るとの見方が強まり、コモディティ通貨が売られるとレアルも 2. 2700 まで反落した後、2. 2600 と 2. 2700 の間で小幅に推移し、結局 US\$1=R\$2. 2660 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
7/15	貿易収支(FOB)-週次	jul/14	--	\$198M
7/16	FGVインフレ率-IGP-10(前月比)	Jul	0.60%	0.63%
7/16	FGV CPI IPC-S	jul/15	0.13%	0.23%
7/17	FIPE消費者物価指数(週次)	jul/15	0.05%	0.16%
7/18	IGP-M Inflation 2nd Preview	Jul	0.32%	0.74%
7/18	COPOM Releases Minutes of June Monetary Policy Meeting			
7/19	IBGE CPI IPCA-15(拡大/前月比)	Jul	0.13%	0.38%
7/19	IBGE CPI IPCA-15 (YoY)	Jul	6.45%	--

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.20-2.30

今週はサンパウロ州の祝日を受けてレアル相場の流動性は極めて限定的となる中、FOMC 議事録を材料にレアル相場は大きく動き、2009 年以来の安値となる 2.2800 まで下落した。米緩和策の縮小のタイミングについて FOMC メンバー内で意見が分かれる中、バーナンキ議長は「予見可能な将来において高度に緩和的な金融政策が米経済には必要だ」と述べ、債券購入のペースが近い将来に減速される可能性が低いことを示唆した。その結果、一時的にドル高に歯止めがかかったが、米資産購入の減速を巡って市場では引き続き方向感の定まらない展開が続いている。その他、中国では経済成長率が政府の予想を下回る可能性が高まっており、市場ではレアルを含むコモディティ通貨に対する影響が注目されている。来週は国内では今週 0.50%の利上げが実施された COPOM 議事録の発表があり、今後の利上げサイクルに対するヒントが出されるかどうか注目が集まっている。海外では中国 GDP 発表、米小売売上や米地区連銀経済報告（ページブック）の他、バーナンキ米 FRB 議長による議会証言に注目が集まっており、内容次第ではレアル相場は大きく動く可能性があり、引き続き注意が必要であろう。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したのですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department